

各 位

平成31年3月29日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「ミズバショウの谷」に群生するザゼンソウ（前年の4月上旬に撮影）

ザゼンソウ(サトイモ科)

ミズバショウよりも一足早く、「ミズバショウの谷」に咲き始めます。花の様子が、僧が座禅をしているように見えるため、この名があります。別名ダルマソウとも言われています。紫褐色の花のように見えるものは仏炎苞と言われ、葉が変形したものです。仏炎苞の中の黄褐色の楕円形の部分が花序（花の集まり）です。

今年は積雪が少なく、3月には雪が解け、スプリングエフェメラルと呼ばれる早春の草花たちが3月中旬より開花を始めました。例年3月下旬に咲き誇るフクジュソウはもう終わろうとしています。一方、オオミスミソウやアズマイチゲ、リュウキンカ等のキンポウゲ科の仲間たちが開花をしています。枯れ葉で覆われた林の下の地面に可愛い花たちが色を添えています。

また野草園の湿地「ミズバショウの谷」ではザゼンソウが一面に咲き出しています。そして、本園のシンボルのミズバショウも間もなく開花を始めます。最盛期にはザゼンソウとミズバショウがそれぞれ1万株程咲き誇ります。これからの好季節、園内を歩きながら、早春の花たちを、是非ご覧下さい。

3月下旬から4月前半の予定

◆【プレオープン】

正式な開園に先駆けて、3/30(土)、31(日) 9:00~16:30に野草園は「**プレオープン**」します。冬の間、植物たちは寒さに耐えながら開花の準備をしてきました。是非、春に目覚める植物たちの様子を見にいらしてください。

◆【ガイドウォーキング】

正式開園後のガイドウォーキングは、毎週日曜日と祝日に設定していますが、プレオープン期間と開園日も行います。ぜひご参加ください。

○日 時 3/30(土)・31(日)、4/1(月)・7(日)・14(日)

①10:00~11:00 ②11:00~12:00 ③13:00~14:00 ④14:00~15:00

○場 所 野草園内全域

○内 容 ボランティアガイドや職員と一緒に園内を散策します。申込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もします。

※ガイドウォーキングは、花の見所の多い無休期間(4月第3月曜日~6月第2月曜日)と9月は、土・日と続けて実施しますので、是非お越しください。

◆4/1(月) 野草園の開園日…入園記念に、サクラソウの苗をプレゼントします(先着100名)。

◆【野草園写真展(紅の蔵)】

○日 時 4/2(火)~23(火) 10:00~18:00

○会 場 山形まるごと館 紅の蔵 街なか情報館

○内 容 平成30年度の写真コンテスト入賞作品や山野草盆栽・籐細工などの展示

○参加費 無料

○問合せ 紅の蔵 TEL023-679-5101 山形市十日町2-1-8

◆【バードウォッチング】

○日 時 4/13(土) 9:30~11:30

○講 師 嵐田 稔 氏 ○場 所 園内

○対 象 先着20名 ○参加費 資料代として100円(入園料別)

○持ち物 双眼鏡(野草園でも貸し出します。)

○申込み 電話で野草園まで、TEL023-634-4120

◆【山野草販売】

○日 時 4/1(月)・6(土)・7(日)・13(土)・14(日)

○場 所 自然学習センターピロティ

●●● 3月下旬と4月前半に見られる花たち ●●●



マルバマンサク(マンサク科)

マンサクが太平洋側に多いのに対して、マルバマンサクは日本海側に多く、積雪地に適応したタイプのようなようです。花はマンサクと同じですが、葉の上半部が丸いのが特徴です。線形で黄色の花弁と紫紅色の萼が良く目立ちます。春に先駆けて「まず咲く」ので、マンサクといわれています。



フクジュソウ (キンポウゲ科)

雪が解けると、土の中からいち早く咲き出すのがフクジュソウです。落葉樹林の中で春早く花を咲かせて実を結びます。福寿草や長寿草、元日草など、縁起のよい名前がたくさんあります。金属光沢のある黄色い花は、春の光をいっぱいあびて大きく開花しています。



フキノトウ (キク科)

淡緑色の苞に包まれたフキの若い花茎がフキノトウです。雌雄異株なので、よく見ると頭花の色が違うのがわかります。写真のように黄色っぽいのが雄株で、白っぽいのが雌株です。フキノトウは、春の山菜として人気があります。特有の香りとおろ苦い味は、カリウムとポリフェノール化合物のクロロゲン酸によるものだそうです。



リュウキンカ (キンポウゲ科)

金色の花が、立った茎に咲くので「立金花」と言われています。湿地や沼地に生える多年草で、葉はフキのようなまるい形をしています。黄色の花のように見えるのは、花弁状の萼片で、花弁はありません。「クリンソウの谷」に咲いています。



ハンノキ (カバノキ科)

ミズバショウとザゼンソウが咲くところにハンノキ林があります。3月末には開花していました。枝先に垂れさがってついているのは雄花で、その下方に赤い小さな雌花が見えます。雄花も雌花も芽鱗に包まれず、冬芽が裸出したまま冬を越すのはハンノキの仲間の特徴です。ヤシャブシの仲間の雌花は芽鱗に包まれます。



アセビ (ツツジ科)

ツツジ科の低木であるアセビは、白い壺形の小さな花を下向きにたくさんつけています。牛馬が食うと麻痺するといわれて「馬酔木（あせび）」となったようです。葉も光沢のある緑色で見ごたえがあります。葉の煎汁は駆虫剤にもなります。花は美しいが有毒植物です。「吉林の庭」に咲いています。



オオミスミソウ (キンポウゲ科)

雪解けのあと、落ち葉を押しつけて、咲きます。雪割草とも言われています。常緑の多年草で、葉は浅く3裂し先は少しとがります。ミスミソウとスハマソウに似ていて、全体が大型です。ミスミソウ（三角草）は葉の形にもとづいたものです。「ミズバショウの谷」の木道近くの斜面に咲いています。



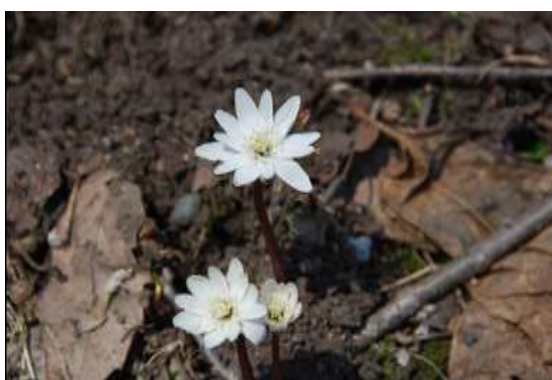
ミズバショウ (サトイモ科)

野草園のシンボルでもあるミズバショウ、白いものは葉の変形した仏炎苞、その中の黄色いものが花の集まりの花序です。バショウとはバナナの1種で、葉の長いものは2mになります。ミズバショウの葉も花後は80cm位になります。バショウの葉に似て、水辺が大変好きなのでミズバショウです。



クリスマスローズ (キンポウゲ科)

中国原産の多年草です。暖かい地方ではクリスマスの頃から開花するのでこの名があります。白または淡い赤紫色を帯びた5枚の花弁状の萼の中央に、多数の雄しべとそのまわりに緑色を帯びた筒形の短い花弁があります。野草園では雪解けとともに開花します。春咲きのクリスマスローズが普通のようなようです。



アスマイチゲ (キンポウゲ科)

イチリンソウのなかまで、春の短い期間だけ咲いて、初夏には枯れてしまいます。キクザキイチゲと似ていますが、葉に切れ込みが少なく、肩を落としているように垂れ下がっていることで、見分けることができます。花弁状の萼片は白色で基部と裏側は少し紫色を帯びています。主に東日本に多く分布しイチリンソウ（イチゲ）の仲間なので名がついています。



キクザキイチゲ (キンポウゲ科)

まわりの木々が葉を茂らせる前にいち早く咲き出します。名前からもわかるように、花弁状の萼片が多く、葉も切れ込みが多く、キクの花に似ています。花色は多彩で淡紫青色から白色までいろいろあります。日が当たると花を開き、曇ると花を閉じてしまいます。



イワウチワ (イワウメ科)

常緑の多年草で、岩地に生え、葉がうちわに似るのでこの名があります。イワウチワの葉は、質が厚く光沢があり、長さより幅が広いのが特徴です。葉の間から花茎を立てて、1茎に1花をつけ、花は横向きを開き、淡紅色で先が細かく切れ込んでいます。



ショウジョウバカマ (シュロソウ科)

春いち早く咲く常緑多年生の草本です。葉は地表に広がってロゼット状になり、花茎の先に数個の花を横向きにつけます。花は淡紅色から濃紅紫色まであります。花後も緑色になって残ります。名前の由来は、花を能楽の「猩々」の赤頭の毛に例え、葉を袴に見立てたものと言われています。



サンシュユ (ミズキ科)

中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。秋に赤く熟す果実の果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用にしたり、果実を果実酒にします。葉が開く前に淡黄色の小さな花を沢山つけます。花弁は4個で長さ約3ミリで先はとがりそり返っています。春黄金花、秋珊瑚ともいわれます。「吉林の庭」で咲いています。



アカヤシオ (ツツジ科)

まわりの木々が芽吹く前で、ピンク色の花がひととき目立ちます。枝分かれが多く、葉が開く前に、枝先に淡紅紫色の広い漏斗状で5裂した花弁と、雄しべ10個の花をつけます。葉は広楕円形で先がとがり、枝先に5枚輪になってつきます。葉柄や葉縁には2mmをこえる毛が生えています。



エゾムラサキツツジ (ツツジ科)

自生地の北海道では、5月に開花するそうですが、本園では、最初に咲くツツジの1つです。ツツジの仲間は花の美しいものが多く、庭木、生け垣、盆栽、公園樹などにされます。枝先の花芽から紫紅色の花を咲かせます。葉も枝先に集まってつき、半常緑樹でやや革質、葉先はくぼんでいます。ロックガーデンを少し登った所で、きれいに咲きます。